

2008 年版 行政書士 過去問 優先順位

法律の国家試験においては、「過去問の学習から始まり、過去問に終わる。」この意見には賛成です。行政書士試験については、近年の出題内容は多岐に渡り、難化傾向にあります。過去問は、初学者が1回や、2回解いて攻略できる内容ではないでしょう。初学者は最低でも5回は解くのは常識です。「過去問は解くものではない。覚えるものである。」ここまで割り切って反復し、過去問で問われた内容は受験生として常識にしましょう。

過去問を完全に攻略していなければ、合格はありえないと言ったら、いい過ぎでしょうか。しかし、**少なからず法令科目、特に行政法は妥当します**。ただし、合格のために過去問攻略が必要不可欠だとしても、行政書士試験は、合格基準は絶対評価になっており、捨て問が混在することは否めません。この捨て問のなかでも、今後出題され得る可能性が極めて低く、万が一出題されても合否を左右する問題ではないものがあります。そこで、下記に優先順位の低いものを列記しました。参考にして下さい。**下記以外は徹底して反復しましょう!**

作成者 行政書士試験 担当 永谷 次朗

		解く必要なし	できれば解く
業務法令 (上)	基礎法学	なし	なし
	憲法	H17-4 H18-5 H16-6	H13-3 H16-3 H14-3 H18-41 H19-4 H19-41
	地方自治法	H18-25 H15-20	H12-17 H16-18 H15-18 H14-19 H13-19
	行政法の 一般的な法理論	H13-10 H18-26	なし
	行政不服審査法	なし	なし
	行政事件訴訟法	なし	なし
	行政手続法	なし	H15-13
	国家賠償法 ・損失填補	なし	なし
業務法令 (下)	民法	H18-28 H10-29 H19-32 H19-45	H10-28 H19-33 H19-34 H19-46
	商法 会社法	H19-37 H19-39	H19-40
	記述式	H15-36	H16-36 H17-36 H17-37
業務に 関連する 一般知識等	文章理解	H14-43 H11-6 H10-5 H9-4 H10-4 H13-43	なし
	政治 経済 社会	H16-54 H16-47 H6-17 H19-49 H19-50 H19-51 H19-52	H18-52 H15-49 H13-50 H12-54 H15-55 H14-50 H14-51 H17-53 H16-51 H12-50 H19-48 H19-57
	情報通信 個人情報保護法	H16-56 H16-55	なし

「H16-56」等の表記は、「出題年度 - 問題番号」を表しています。